

序

内閣府では、日本と諸外国の青年の交流により、青年相互の友好と理解を促進するとともに、青年の国際的視野を広げ、次代を担うにふさわしい国際性を備えた健全な青年を育成することを目的として各種の青年国際交流事業を実施してまいりました。

その中でも、「世界青年の船」事業は、明治100年記念事業の一つとして昭和42年度（1967年度）に開始された「青年の船」事業に由来するもので、日本を含む11か国から多様なバックグラウンドを持つ参加青年たちを、ディスカッションや文化交流、ワークショップ等を通じて、国際的視野を広げ、国際化が進展する社会の各分野でリーダーシップを発揮することができるよう育成することを目的としています。

本事業は元々、船上で共同生活を送りながらディスカッションやセミナー等の研修を行うものですが、コロナ禍を巡る状況がいまだに予断を許さないことから、昨年度に引き続き、オンライン形式で事業を開催することといたしました。今年度は、昨年度好評であった、世界各地で活躍する本事業の参加経験者によるオンライン講演会のノウハウを活かしつつ、新たに青年同士の交流に重点を置いた内容としています。

具体的には、日本参加青年による事前研修のほか、社会の指導的地位で活躍する有識者によるSDGsの各分野に関する講演や、SDGsを共通テーマにしたコース・ディスカッション、参加者同士による自国の伝統文化や食文化などの文化紹介を行うワークショップ、本事業で学んだ成果の発表など「世界青年の船」を疑似体験できる多彩なプログラムを計8回にわたってオンラインで開催し、日本を含めた世界中の青年に参加いただきました。

交流プログラムを終えた後に実施した事業報告会では、参加青年による自主企画が開催されたほか、事業で得られた成果や自らの体験等について熱く語られるなど、本プログラムを通じた参加青年の大きな学びや成長を感じ取ることができました。また、事業報告会は広く一般に公開されており、視聴した青少年から「次は自分たちが参加する番だ」などの声も聞かれるなど、今後の事業へのつながりも期待できるものとなりました。

今回参加した青年一人ひとりが、地域、国家、世界のいずれの舞台においても、今後の活動においてリーダーシップをいかに発揮されることを願っております。

内閣府としても、これまでの交流事業の経験や実績を踏まえて、今後の「世界青年の船」事業の更なる充実につなげていきたいと思っております。

本報告書は、今回のオンライン交流で行った様々な活動について記録したものです。この報告書を通じ、事業の成果を御理解いただくとともに、国際交流への関心を高め、今後の一層の御支援をいただければ幸いです。

最後に、本事業の実施に当たって御協力いただいた参加各国の政府及び事後活動組織、外務省本省並びに在外公館の関係各位に、心から御礼申し上げます。

令和4年3月
内閣府青年国際交流担当室長
黒瀬 敏文

内閣府青年国際交流事業報告書2021
令和3年度「世界青年の船」事業(オンライン)

CONTENTS

序	
カラーグラビア	
第1章 事業の概要	9
1. 趣旨	9
2. 事業内容	9
3. 日程	9
4. 参加国	10
5. 参加青年 (PY)	10
6. ファシリテーター会議	11
7. 日本参加青年事前研修	12
8. 日本参加青年の成果報告	12
第2章 「世界青年の船」事業 (オンライン)	13
1. 日程	13
2. 内閣府特命担当大臣挨拶	14
第3章 コース・ディスカッション	15
1. 社会問題	15
2. ジェンダー平等問題	18
3. 経済問題	21
4. 環境問題	24
第4章 ワークショップ	28
1. ワークショップ一覧	28
第5章 本事業に対する事業評価	34
1. 参加青年による事業評価	34
2. 統率相談員所感	40
関係資料	42
1. 参加者名簿	42
2. 参加青年の構成	46
3. 事後活動	47
4. 既参加青年による事後活動組織設立への動きとその歴史	47
5. SWYAA国際連盟について	49

* 個人情報保護のため、参加青年個人を識別できる氏名等の情報については掲載しておりません。